



# 八松小だより

## 学校教育目標

「心豊かな人間性を養い、自ら学び  
自ら行動する子どもを育てる」  
合言葉「私ってすごい！みんなすごい  
やったぞ！できたぞ！の声がいっぱい！」



2025年（令和7年）7月号

## 信じる心と確かめる力

校長 瀧谷 典子

子どもたちは学校での出来事を、帰宅後に保護者の皆さんへ色々と話してくれることでしょうか。皆さんは、そうした子どもの話にどのように耳を傾けていらっしゃるのでしょうか。今回のコラムでは、子どもの話の受け止め方や、噂話との向き合い方について考えてみたいと思います。お子さんの健やかな成長のために、私たち大人がどのような姿勢であるべきか、一緒に考える機会にさせていただければ幸いです。

### 子どもの話を信じて受け止める

まず、子どもの話をしっかりと信じて受け止めることが大切です。保護者に聞いてもらえることが、子どもの安心や自己肯定感や親子の信頼関係を育む基盤になります。たとえ一方的な見方が含まれていたとしても、まずは、お子さんの気持ちに寄り添いながら耳を傾けてあげてください。

### 冷静に全体を見る姿勢を忘れずに

とはいえ、子どもの話す内容が常に全て事実を反映しているとは限りません。一生懸命に自分の見たこと感じたことを伝えていても、子どもの視点からは見えない背景や、もう一方の立場からの事情があるかもしれません。ですから、保護者が感情的になりすぎず冷静に状況の全体像を見ようとする姿勢も重要です。例えば、お友達とのけんかの話では、一方の言い分だけでは真相はわかりません。すぐに他の子を悪者と決めつけるのではなく、「もしかしたら何か誤解があったのかもしれないね」と伝え、一緒に状況を整理してみると良いでしょう。大人が落ち着いて物事を多面的に捉える様子を見せることで、子どもも一つの視点にとらわれず考える力を身につけていくはずですよ。

### 根拠のない噂に流されない

そして、根拠のない噂話や、受け取った側が誤解したり思い込んだりして広がってしまう可能性のある情報に流されないことも大切です。噂はあっという間に広がってしまいます。誤情報は、人を深く傷つけるものです。一度広まった噂を後から完全に否定することは難しく、誤情報は誤情報と呼び、無関係の人々まで巻き込んでしまうこともあります。私たち大人も、そうした噂を安易に信じたり他の人に広めたりしないよう、日頃から気をつけたいものです。根拠の曖昧な話ほど鵜呑みにしないと自分に言い聞かせることが大切ですし、そうすることで子どもたちにも慎重さと判断力の手本を示せるはずですよ。

### 絵本『二番目の悪者』に学ぶ

こうした「噂との付き合い方」について考える上で、ぜひ紹介したい絵本があります。『二番目の悪者』（林木林 作／庄野ナホコ 絵）という一冊です。この物語の舞台は動物たちの王国。金色のたてがみを持つライオンが、次の王様の座を狙うライバルの銀色のライオンに嫉妬し、彼を失脚させようと悪い噂を流します。その噂はみるみるうちに国中に広がり、皆から信頼されていたはずの銀のライオンは追い詰められてしまいます。嘘の噂話を流した金のライオンこそ「一番目の悪者」ですが、では「二番目の悪者」とは一体誰なのでしょう？この絵本が鋭く指摘する「二番目の悪者」とは、まさに最初の噂を鵜呑みにして広めてしまった周囲の人々のことです。金のライオンに踊らされ、疑うこともせず銀のライオンを非難した動物たち——彼らこそが二番目の悪者なのだと言語は教えてくれます。興味深いことに、噂を広げた動物たちは自分たちが悪いことをした自覚がありません。ただ心配だったり、他愛なく話題にただけだったり、自分が「二番目の悪者」になってしまっているとは夢にも思っていないのです。作中では、雲のキャラクターがこんな言葉を投げかけます。「嘘は、向こうから巧妙にやってくるが、真実は、自らさがし求めなければ見つけれられない」。まさに、何が真実で何が嘘なのかを自分で確かめようとする姿勢の大切さを教えてくれる一節です。さらにこの絵本の帯に「考えない、行動しないという罪」という深いメッセージが記されています。誤った噂に対して何も考えず、何もしていない傍観者でいることも、大きな過ちになりうるという警鐘です。この絵本は、私たち大人が噂を信じてしまうことで知らず知らずのうちに加害者になってしまう可能性があることを教えてくれます。

### ご家庭でできる対話と学び

最後になりますが、こうした価値観や姿勢を子どもたちに育んでいくためには、学校と家庭の連携が欠かせません。学校でも日々指導してまいります。ぜひご家庭でも、お子さんと一緒に対話しながら学ぶ機会を作ってみてください。日常の何気ない会話の中で、「物事を鵜呑みにせず、自分で確かめる」「自分の言葉に責任を持つ」大切さを折に触れて伝えていきましょう。

## 7月の目標

### 1学期の目標

元気よくあいさつをしましょう

### 生活目標

健康にすごそう

### 保健目標

夏を元気にすごそう

### 給食指導の目標

衛生に気をつけよう



## 7月の予定



配付した八松だよりの通りです

## 熱中症予防・学校に持参できる飲みもの

気温や湿度が高くなり、熱中症予防のための水分補給がますます重要になります。

学校の水道水は、飲料水として飲んでいただけます。しかし、子どもたちの中には、水筒の飲みものがなくなると、水道水は飲まずに、我慢するお子さんが見られます。水筒には、十分な量の飲みものを持たせてください。

また、暑さ対策として、6月20日（金）から10月19日（土）（運動会終了日）までの期間、学校に持ってくる飲み物として、お茶や水に加えて、スポーツドリンクも可といたしました。ペットボトルを持参する場合は、カバーの中に入れて、必ずカバーに記名してください。空になったペットボトルは家庭に持ち帰ります。

### ◇家庭でできる熱中症予防

**朝ごはん** 塩分、水分、栄養補給ができ、体温調節がスムーズになります。

**十分な睡眠** 睡眠不足は、体温調節機能の低下を招きます。寝る前のスマートフォンの使用やゲームはやめましょう。

**暑熱順化（暑さに慣れる）** すずしい時間帯に短い時間、外遊びをすることで体が暑さに対応できるようになります。

## 【8月の予定】

## 【9月の予定】

## 藤沢市教育文化講演会のご案内

保護者、地域の皆様も申し込むことができます



藤沢市教育文化センター 教育文化講演会  
どの子ども安心していられる学校づくり  
～保護者・地域・教職員、「大人のチーム力」で学校をつくる～

いま、子どもを取り巻く環境は、学校においても、家庭・地域においても「人に迷惑をかけてはいけない」という声かけのもと、失敗することも、やり直しをすることもできないなんてことはありませんか。

「迷惑な子」なんて一人もいません。子どもの声を聴きながら、「大人のチーム力」でどの子ども安心していられる学校、そして、家庭・地域になるためにできることについてご講演いただけます。

【講師】  
木村 泰子 氏

木村先生は、2006年に開校した大阪市立大空小学校初代校長として9年間務められ、「みんながつくるみんなの学校」を合い言葉に、すべての子どもを各方面からみつめ、全教職員のチーム力で「すべての子どもの学習権を保障する学校をつくる」ことに情熱を注がれました。現在は、全国各地で講演活動をされています。

と き 8月25日（月）14:00～16:00  
（入場無料 手話通訳有）  
と ころ フレイス（藤沢市藤沢市民センター・労働会館等複合施設）ホール  
定 員 300人 ※定員になり次第申込みは終了させていただきます。  
申込方法 二次元コードもしくは電話  
申込み 7月15日（火）～25日（金）  
申込フォーム（二次元コード）より  
電話 Tel (50) 8300  
受付 平日 8:30～17:00



## 不審者に遭遇した場合の対応について

最近、放課後や帰宅途中にお子さんが、不審な人物に声をかけられた、という報告が市内でも見られています。

万が一、お子さんが不審者に遭遇した場合には、まずは保護者の方から警察（110番）へ通報をお願いいたします。当事者や目撃者が直接、警察に状況を説明することが、迅速で正確な対応につながります。

また、警察への通報の後には、学校にもご一報いただけますようお願いいたします。学校でも地域の安全情報として共有し、今後の見守り体制に生かしてまいります。

## 災害に備えて

～風水害による引き取り訓練・地震津波避難訓練を実施しました～

6月に入り、八松小学校では、万一の災害時に備えて2つの訓練を行いました。

まず6月2日(月)には、風水害による「引き取り訓練」を実施しました。

台風や集中豪雨などで児童の下校が危険と判断される場合に備え、保護者の皆様にご来校いただき、お子さんの引き渡しを行う手順を確認しました。



お忙しい中ご協力いただき、ありがとうございます。災害時にも落ち着いて確実に対応できるよう、今後も連携を大切にまいります。

また6月12日(木)には、「地震・津波避難訓練」を行いました。

今回は、大きな地震が発生したあとに「大津波警報が発令された」という想定での訓練です。

地震発生時には、児童全員が机の下にもぐり、机の脚を対角線にしっかりと手でおさえて身を守る姿勢をとり、地震の揺れが収まるのを待ちました。



その後、津波からの避難として、全員が校舎2階以上へ移動しました。

プレハブ棟や別棟にいる3年生は、西校舎の2階・3階へ、東校舎1階にいる1年生は、2階へと避難しました。1年生・3年生ともに素早く落ち着いて行動することができ、その他の学年も静かに次の指示を待つなど、真剣に訓練に臨む姿がとても立派でした。



災害はいつ起こるか分かりません。だからこそ、日ごろから「落ち着いて行動する」「自分の命を守る」意識を持つことが大切です。

学校では今後も、安全への備えをしっかりと進めてまいります。ご家庭でも、非常時の連絡手段や避難場所について、お子さんと話し合ってみてください。

あわせて、児童一人ひとりの災害時備蓄品が、学校に届きましたことをお知らせいたします。

今年度、保護者の皆様にご負担いただき、以下の備蓄品を見童一人一人にご用意いただきました。

- ・携帯トイレ (10回分)
- ・アルファ米 (7年保存 2食分)
- ・飲料水 (7年保存 ペットボトル2本)



これらは、学校で災害時に備えて保管いたします。

使用しなかった場合は、お子様の卒業時にお返しいたします。ご理解とご協力に、心より感謝申し上げます。

## 園芸ボランティア活動 ご協力ありがとうございました

6月11日(火)、PTA園芸ボランティア活動を実施しました。今回もたくさんの保護者の皆様にご参加くださり、校庭の周囲や調理場の周辺の草取りを中心に、たくさんの作業を行っていただきました。

当日は、子どもたちが、砂場で図工の「造形あそび」や、校庭で体育の学習を行っている中での作業となりました。子どもたちの活動を温かく見守りながら、作業にご協力いただく皆様の姿がとても印象的でした。

黙々と作業してくださる方、おしゃべりをしながら楽しく取り組んでくださる方と、それぞれの関わり方で活動していただきました。

草をきれいに刈っていただいたことで、見目がすっきりしただけでなく、虫刺されなどの予防にもつながり、子どもたちが安全に活動できる環境づくりに大きく貢献していただきました。

また、皆様のお力添えのおかげで、学校用務員は校内の修繕や木の剪定など、専門的な作業に集中することができ、学校全体としても非常に助かっております。

ご多用の中、学校のため、子どもたちのために力を貸していただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

2学期に次回の園芸ボランティア活動も予定しています。ぜひ、お気軽にご参加ください。



## プール学習が始まりました

梅雨の合間の晴れ間に恵まれ、子どもたちは6月16日(月)からプールの学習を楽しみに元気に取り組んでいます。今年も安全で充実した水泳学習ができるよう、さまざまな準備を行ってきました。

## 保護者、地域の方々によるご協力に感謝

5月末には、保護者の皆様にご協力をいただき、プール清掃を行いました。暑い中での作業に多くの方がご協力くださったおかげで、プールはとてもきれいになりました。

そして、今年度は、八松地区社会体育振興協議会の方々に、濾過器の珪藻土の張替えや、週之初めのごみ取りなど、水質管理の面でも継続的にご協力をいただいています。

皆様の温かなご支援に心より感謝いたします。



## 2年生がとうもろこしの皮むき体験をしました

6月20日（金）、2年生が食育の一環として、給食で提供されとうもろこしの皮むきを行いました。今回は、旬を迎えたとうもろこし258本を、2年生全員で協力してむきました。このとうもろこしは、学校給食のために地域の方が育ててくださったものです。

皮をむくには少し力がいります。とくに、最後に茎の部分を「ポキッ」と折る作業にはコツも必要で、初めは苦戦していた子も、だんだんと慣れて上手にできるようになっていきました。

皮をむいた後は、とうもろこしの「ひげ」を丁寧に取り除きました。子どもたちは、「ひげの数は粒の数と同じなんだって！」と一本一本が実につながっていることを知り、驚きの声をあげていました。観察の目を光らせながら、丁寧に作業をしていました。

皮をむいたとうもろこしからは、すでに甘い香りがただよい、「早く食べたいな」「いいにおい！」という声があがっていました。

むいたとうもろこしは調理場で茹でて、給食に登場しました。「とても甘くておいしかった！」と、子どもたちにとっても特別な味になったようです。



## 5年生 雨にもまけず！心に残るハヶ岳

6月23日（月）・24日（火）に、5年生がハヶ岳野外体験教室に行きました。雨の中でも前向きに活動し、火起こしから行ったカレー作りは「最高においしかった！」との声も。

キャンプファイヤーは屋内でキャンドルファイヤーに変更され、クラスの出し物やゲームで大盛り上がりでした。

2日目は、クラフト体験のバードコール作りや、清泉寮でソフトクリームを楽しみました。準備から活動を通して、子どもたちは仲間と協力する大切さを学び、大きく成長した2日間となりました。

今回の宿泊学習が無事に終わることができたのは、ご家庭での体調管理や励ましのおかげです。

ご協力に心より感謝申し上げます。



## 「心を大切にすると、どういうこと？」

6月20日（金）、朝会で、まず初めに運営委員会の子どもたちから、今年度の八松小学校のスローガンが発表されました。それは……

「元気千倍 ラッキー ハッピー ヤマッキー」！明るくて、元気が出る言葉のつながりに、思わず笑顔がこぼれるような、八松らしい楽しいスローガンです。

そしてスローガンの発表のあと、私から「心をたいせつにすること」をテーマに、『しらゆきちゃんのはなし』というスライドを通して、全校児童に講話を行いました。

スライドでは、やさしいやぎの「しらゆきちゃん」が、うわさ話やかからかいの言葉によって、心を傷つけられてしまう場面が描かれます。

講話の中では、こんなふうに語りかけました。

「心は目に見えないけれど、みんなの言葉や行動で、ふくらんだり、しぼんだりするんだよ。やさしい言葉で元気になれることもあれば、からかいや悪口でしぼんでしまうこともあるんだよ。」

さらに、「相手が泣いたり怒ったりするのを見ておもしろがってしまうと、それは“心をおもちゃにしている”ことかもしれないよ」と話したところ、子どもたちの中から「えっ?! おもちゃ?」という声があがりました。

“心”という目に見えないものを“おもちゃ”にたとえて問いかけたことで、子どもたちの中に「どういうことだろう?」という思いが芽生え、表情に小さな変化が見られました。その表情には、考えようとしている姿勢がにじんでいたように感じます。

「からかうようなことを言ったり、うわさ話をしたりということ、ないかな?」という問いかけには、「ないよ!」という声も返ってきて、それぞれの子が、自分のふだんの言葉や行動を思い浮かべながら聞いているようでした。

子どもたちの心に、何かが少しでも残ってくれていたら嬉しいなと願っています。

『元気千倍 ラッキー ハッピー ヤマッキー』というスローガンには、「みんなで楽しく過ごしたい」という願いがこめられています。そのためにも、見えない“心”を大切にすること、そして、自分の心も、相手の心も、どちらも同じように大切にすることがとても大切です。

今後も、日々の生活の中で、子どもたちのつぶやきや気づきを大切にしながら心を育てる教育をすすめていきます。

